



2024.08.28

オンライン講座

精神医学（各論）_8_精神疾患の対応_4



もりさわメンタルクリニック

薬を飲んでもらいたい①

状況：薬を飲まそうとしたところ本人がそれを拒否した。

本人：もう薬は飲みたくない。

家族：だめだ。飲まないで調子が悪くなるだろ？（飲みたくない気持ちを聞いていない）

⇒（まずは本人の体験や感覚を確認する） どうして飲みたくないのか教えてくれるか？

本人：飲んだほうが調子が悪くなる。

家族：そんなことはない。ちゃんと飲まないでだめだ。先生だってそう言ってただろ？（本人の体験を確認せず、さらに説得のみを行っている）

⇒（積極的にあなたの話を聞きたいというサインを送るために詳しく聞く） どんなふうに調子が悪くなるんだ？

薬を飲んでもらいたい②

本人：みんな何にもわかってない。飲むと具合が悪くなるんだ。それに全然効かない。

家族：そんなはずはない。薬を飲まないとまた入院になるぞ。（どんなふう具合が悪くなるのか聞いていない。十分話を聞かずに事実を突きつけると脅しの意味合いが強くなってしまう）

⇒（本人の求めているものを確認する）本当はどんなふう効いて欲しいんだ？

本人：.....

家族：とにかく言われた通り薬はちゃんと飲みなさい。（結局、本人を押し切るだけの問答になっている）

⇒（本人の感覚を十分に聞いた上で受け入れやすい目標に限定し、ハードルを下げる）お前が納得できるように受診した時、薬を調整してもらおう。急に止めると体に毒だから今日だけは飲んでおこう。

薬を飲んでもらいたい③

追加

①目標の切り下げ方

- ・どうしても飲めなければ、その日は様子を見て、早めに受診する
- ・受診ができなければ、翌日また落ち着いているときにすすめてみる。
- ・やはり服薬できない時は、時々のはしは続け、主治医に電話での相談だけでも行っておく
(その時にできる望ましい対応をこころがけるが、無理はしない)

②実際には「本人の感覚の汲み取り⇒説明（説得）・薬剤調整」を繰り返しながら、本人が求めるもの（または妥協の範囲）と医療が提供できるものとの溝を長期に渡って埋めていく作業が必要となる。